

# 令和元年度 自己評価書

学校名	北海道鶴川高等学校
-----	-----------

## 1 本年度の重点目標

- (1) 生徒のより良い自己実現を目指し、絶えず研鑽に励み、専門性を高め、質の高い教育活動の実践に努める。
- (2) 学校課題の解決を図るため、地域や専門機関等との連携を図りながら、積極的に教育活動の改善・充実に努める。
- (3) 学校経営参画意識の高揚を図り、組織体としての機能を高め、協働体制の確立に努める。
- (4) 連携型中高一貫教育等の充実に努め、地域から信頼され、愛される学校づくりに努める。
- (5) 地域や保護者等との連携・協調に努め、教育環境の整備に努める。
- (6) 学校における働き方改革「北海道アクション・プラン」を推進し、その具現化を図る。

## 2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成状況	取組の適切さ	今後の改善の方策
大項目	中項目	小項目			
学習指導	・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	生徒による授業評価の実施(長期休業前)ができたか。	B	B	・本年度は各教科担任で実施したため、次年度は全体で実施して活用を図る。
	・授業規律の指導の徹底	生徒による授業規律に関する自己評価アンケートの実施ができたか。	B	A	・今後はClassiのアンケート機能を活用し、集計等を効率的に行いたい。またアンケートの活用について、生徒指導部とも連携しながら、大きな意味での「ルール」を生徒に考えさせる。
	・Classiの有効活用	各教科による活用方法を集約し共有することができたか。	C	B	・一部教科で活用した。研修会も実施し、授業での活用方法もわかったので、今後はいかに学校全体の取り組みとするか検討する。
	・教科シラバスを踏まえた授業管理	授業進度の管理・達成度・活用方法の検証(定期考査ごと)ができたか。	B	B	・今後はコンテンツベースのシラバスでなく、ねらいや身に付けさせたいものをベースにしたシラバスを作成する。
	・自主学習の推進、考査前学習の推進	家庭学習提出率、各科目宿題状況の検証及び自習室利用者数の検証ができたか。	B	B	・各科目における宿題、家庭学習に取り組ませる動きを、より全体のものにしていく。
	・新学習指導要領を踏まえた教育課程の編成と教員の負担平均化	教育課程の検討と教員の持ち時数の検証ができたか。	B	B	・本年度は英語科の持ち時数が3人での運用を前提とした教育課程だったため、来年度は3人の配置を進める。
	・総合・LHR計画の見直し	総合的な探究の時間の検証と検討ができたか。	B	B	・むかわ学の運用方法について、今後もさらに継続的な運用が出来るよう、内容の充実をさらに検討、検証する。また、より体系的に実施するために、詳細なシラバス、スケジュールを策定する。 ・チャレンジスタディ、総合、LHRの計画を整理する。
	・社会性の向上を図るための指導の徹底	導入期指導を中心とした高校生としての身だしなみやマナー、公共の場でのルールの徹底ができたか。	B	A	・導入期指導を具体的に生徒に示せると生徒にも指導しやすい。1学年と生徒指導部が連携して、計画的に実施する。

# 令和元年度 自己評価書

生徒指導	<p>・CSTの効果的な取組</p>	<p>組織的・計画的な心の教育のルーブリックの構築(コミュニケーションスキルアップトレーニングの効果的な実施等)ができたか。</p>	B	B	<p>・CSTが、生徒指導部か、心の教育WGか、学年か、主導を明らかにした上で、すべてを統括し、体系的に計画を立てていく。年度当初に内容も決めて、定期的に行うようにする。</p>
	<p>・いじめ撲滅へ向けた取組の徹底</p>	<p>教職員と生徒が一体となったいじめ撲滅運動の実施(生徒会活動の活性化)ができたか。いじめの早期発見・早期対応による解決ができたか。</p>	B	A	<p>・今後はより生徒に寄り添い、様子を見る場面を増やすなどして、未然防止に取り組む。</p> <p>・より連携を密にしつつ、担任の先生からのアプローチで解決していく流れができるとよい。</p> <p>・生徒会活動やCSTで「いじめ」「からかい」について活動し、標語等を考案するなどを進めていく。</p>
	<p>・部活動や生徒会活動等の課外活動の一層の充実</p>	<p>部活動の効果的な実施に向けた規約等の整備ができたか。生徒会活動等における生徒の主体的な活動の支援ができたか。</p>	B	B	<p>・部活については生徒の主体性をくみ上げながら運営できた。一方で、局活動は教員が一から十まで設定しなければならなかったもので、もう少し生徒の主体性を発揮させる。</p>
進路指導	<p>・キャリア教育の視点を踏まえた進路指導計画の改善、充実</p>	<p>身に付けさせたい力に基づく進路シラバスの検証を実施することができたか。</p>	B	B	<p>・より具体的なシラバスの作成、活用しやすいシラバスの作成を進める。</p>
	<p>・生徒の進路希望を確実に実現させるための進路学習等の一層の充実</p>	<p>生徒の進路意識の高揚を図るための効果的な情報提供や進路学習を実施できたか。生徒の学習状況等の分析に基づく「チャレンジスタディ」等の効果的な取組が実施できたか。</p>	B	A	<p>・情報の提供は全体よりも個人への提供をHR担任にお願いする場面が多かったので、より頻繁に全体に対して行う。</p> <p>・チャレンジスタディ(アドバンスコース、グローバルコース)の取組を再検討する。</p>
	<p>・地域等との連携によるキャリア教育の一層の充実</p>	<p>地域等の人材を活用した「チャレンジスタディ」等の充実を図れたか。地域の企業等と連携したデュアルシステムが実施できたか。</p>	B	B	<p>・デュアルシステムを1年間～3年間運用して、効果の検証、検討を行い、より本校に適した形にブラッシュアップする。</p> <p>・デュアルシステムを本校の目玉の取り組みとして推進する。</p>
健康・安全指導	<p>・多様化する生徒への理解の深化と教育相談体制の確立</p>	<p>SC等専門家との連携のもと、個に応じた教育相談体制の充実(心の教育との関連)が図れたか。</p>	A	A	<p>・面談等の実施で、生徒の声を聞く場面が増えたので、今後も継続する。</p>
	<p>・個別の支援が必要な生徒に対する柔軟な対応の推進</p>	<p>個別の支援が必要な生徒の具体的な支援計画の作成及び全校体制での支援の徹底ができたか。</p>	B	B	<p>・支援の必要な生徒や手立てでは話し合われているので、実際の支援について全体のものにしていく。</p> <p>・様々な問題をかかえる生徒が増えてくるなかで、現在の内規では対応が難しくなる点が出てきているので、内規の見直しを進める。</p>

# 令和元年度 自己評価書

	<p>・学校安全の徹底と災害等に対する適切な対応</p>	<p>避難訓練や、各種講演会等の啓蒙活動等を通じた危機管理意識を高めるための取組の実施ができたか。</p>	A	A	<p>・本年は浸水予想地域を超えた津波を想定した避難訓練を実施した。今後も継続して取り組む。</p>
	<p>・美化意識の高揚</p>	<p>生徒会活動等による校舎内外の清掃と美化活動の実施ができたか。</p>	B	B	<p>・生徒会活動主体の美化活動をもう少し大々的に行い、生徒の美化意識を高めていく。 ・まずは身の回り、生徒それぞれの机・棚といった教室の環境整備から徹底していく。</p>
信頼される学校作り	<p>・学びの接続を意識した中学校との教育課程の接続</p>	<p>「むかわ学」「チャレンジスタディ」を柱とした中学校との教育課程の接続の具体例な検討・実施ができたか。</p>	B	B	<p>・「むかわ学」「チャレンジスタディ」の6年間の指導の流れ、6年間のシラバスを作成する。中高一貫を全体のものにする。</p>
	<p>・中高一貫教育の基本理念を踏まえた各種取組の検証</p>	<p>身に付けさせたい力を踏まえたキャリア教育や奉仕活動の取組内容の点検及び工夫・改善ができたか。</p>	B	B	<p>次年度は身に付けさせたい力の観点から取組内容について考える。 ・「身に付けさせたい力」「ねらい」を中心に取組を見直す。</p>
	<p>・社会に開かれた教育課程の確立</p>	<p>身に付けさせたい力を踏まえた、地域や専門機関との協働による教育活動の実施ができたか。</p>	B	A	<p>・デュアルシステム、インターシップ等を通して連携は行われた。また探りつつ進んでいるコンテンツがほとんどだと思うので、継続しつつ、内容の充実を図る。 ・パン商品開発や、家庭科の実習で町の施設への訪問、幼児の高校訪問などの取り組みを今後も展開していく。</p>
	<p>・チーム学校としての教育活動の実施</p>	<p>地域住民や保護者等を対象とした学校公開の実施ができたか。</p>	B	B	<p>・公開授業で一部の方には来校いただけたが、より多くの方々に来校いただけるイベントを実施する。</p>
	<p>・地域や保護者への教育成果の周知及び普及</p>	<p>HPや学校だより等を活用した積極的な情報提供ができたか。 学校説明会や報道機関等を活用した教育活動の周知ができたか。</p>	A	A	<p>・特にパンの販売やビジネスコンテストなど、報道等に取り上げていただく機会に恵まれた1年だった。今後も継続する。</p>
組織運営	<p>・学校課題の明確化及び課題を解決するための取組の確実な遂行</p>	<p>中間反省や年度末反省、学校課題の明確化、及び具体的な改善方策の策定(カリキュラムマネジメントによる教育活動の評価・改善)ができたか。</p>	B	B	<p>・反省会議がもう少し職員の見解を集約する場とする。また、意見についても建設的なものとしていく。</p>
	<p>・組織的、機能的な協働体制の確立</p>	<p>学校経営参画意識の高揚による円滑で組織的な業務遂行ができたか。 学校課題の解決を図るためのワーキンググループによる全校的な取組の推進ができたか。</p>	B	B	<p>・ワーキンググループ内での協議の場が少なかったので、分掌会議のように定期的な情報共有を進める。 ・「組織的」「共働」という部分で不十分な点があったので、より体系的・組織的にすべきであり、継続的に実施したりするものは全体のものにしていく。 ・WGの年間計画を作成する。</p>

## 令和元年度 自己評価書

教職員の 資質向上	・効果的な 校内研修 の推進	教職員の指導力等の向上や学校課題の解決を図るための効果的な研修会の実施ができたか。	A	A	・授業改善や研修会報告なども、研修の場で全体に還元する。 ・今後も参考になる研修会を多く実施する。
	・校外研修 等の積極 的な参加	ライフステージに応じた校外研修等への積極的な参加を奨励できたか。	B	B	・校外研修に参加できる環境づくりを、今後も継続する。
	・教職員の 服務規律 の保持	日常から効果的な情報提供等による公務員としての服務規律の厳守にかかる意識の高揚を図れたか。	A	A	・今後も継続して、適宜情報提供をする。
	・学校職員 人事評価 シートの活 用	教職員の資質能力の向上を図るための人事評価シートを活用した個別面談等を効果的に実施できたか。	A	A	・人事評価シート提出後の管理職面談を継続し、さらに意見の交換を進める。
	・「北海道 アクション プラン」 の推進と その具現 化	長時間勤務の改善や部活動休養日、学校閉庁日の設定等を実施できたか。	A	B	・部活動休養日や学校閉庁日は設定はできているが、長時間勤務については更なる教職員の意識改革に取り組む。

### 3 次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

- ・地域をキャンパスとした探究的な学び「むかわ学」や生徒の特性や能力を伸長させる「チャレンジスタディ」を効果的に実施する。
- ・本校の「育成したい生徒像」と新学習指導要領を踏まえた令和4年度入学生への教育課程の検討を行う。
- ・地域の企業等と連携したデュアルシステムを構築し、チャレンジスタディ「グローバルコース」の生徒を中心に実施する。
- ・町教委や中学校との連携による、新しい連携型中高一貫教育の推進を図る。
- ・全教員が「在校等時間から条例で定める勤務時間等を減じた時間を、1か月で45時間以内、1年間で360時間以内」を実現する。